

① 天野一哉 著

『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか： 格差社会の超エリート教育事情』

(中央公論新社)

中国のGDPが増加して、日本を抜いて世界第2位の経済大国になったのと時を合わせるように、2009年に実施された「生徒の学習到達度調査」に初参加の上海が「学力世界一」になりました。

本書は科学に始まる受験地獄が、蘇ったとしてあります。しかし、知識の丸暗記をしていた科学とは異なり、今は高次の認知能力や対人関係能力等が必要になっています。この点をどの様に短期間でクリアして世界一になったのか、著者はその原動力、矛盾点、実態を詳細に示して、現在の中国の教育を解き明かしています。(T.F.)

372.22 ||Ama

③ シンシア・D・バーテルセン 著、関根光宏 訳

『キノコの歴史』

(原書房)

植物でも動物でもない、色や形や生態もさまざまな不思議な生き物キノコ。その歴史は古く、古代ローマ時代から食されてきました。

本書では、キノコに関する奥深い歴史を菌類好きの国、菌類嫌いの国それぞれの視点から考察してその魅力を探っていきます。

キノコの生態や採取法、栽培法、おいしい食べ方はもちろん、毒や薬としての役割から宗教についてまで、キノコの歴史を豊富な写真やイラストを添えて紹介。巻末の古代ローマ時代から現代にいたるまでの世界各国のキノコ料理のレシピは必見です。(S.K.)

657.82 ||Ber



② 行正り香 著

『持ち寄りパーティーをしよう =Let's plan a potluck Party !』

(講談社)

本書では、アメリカに留学経験のある著者が、楽しい持ち寄りパーティーを開くためには、具体的にどのような事をすればいいのかを、招く側と招かれる側に分けてわかりやすく丁寧に解説しています。

冷めてもおいしく食べる事ができて、お料理初心者でも簡単に作れるレシピが、「前菜」、「サラダ」、「メイン」、「パスタ・ごはん」、「デザート」に分かれて色々掲載されています。またそれぞれのレシピに、その作った料理をどのような容器に入れて、包んで持って行けばよいかなども解説されていますので、持って行ってそのまま食べてもらうことができる様々なアイデアがちりばめられています。(S.S.)

596.4 ||Yuk

④ 山本敏晴 著

『世界で一番いのちの短い国： シエラレオネの国境なき医師団』

(小学館)

シエラレオネと言っても、どこにある国なのか知らない人が多いかもしれません。

本書は2002年、「国境なき医師団」のチームリーダーとして約半年、シエラレオネで活動した著者の記録です。内戦の気配が冷めやらぬ危険な現地、幼い子どもまでが兵士にされている現実などが克明に描かれています。また、著者は活動を通じて、現地文化の尊重を重要視し、それなくして本当のボランティアは出来ないと述べています。

しかし、本書は淡々としたルポルタージュに留まりません。現地の人々との言語の壁に苦慮したこと、皮膚病に悩まされた著者の卑近な体験談など、面白可笑しい場面も登場します。読みやすさも配慮した、お薦めの一冊です。(H.I.)

498.024424 ||Yam